

## 1 学校教育目標

- すすんで学ぶ子
- 仲よく助け合う子
- じょうぶな子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童が明日を楽しみし、学びたくなる、明るく楽しい学校 ○教職員が明日を楽しみし、協働し、充実感と誇りをもてる学校 ○保護者や地域の方々が明日を楽しみし、通わせたくなる学校
○児童・生徒像	○すすんで学ぶ子・・・自ら学ぶ力や判断力、自己責任を果たす態度や協力する子 ○仲よく助け合う子・・・多様な考えを認め合い、他を思いやる心を身に付けた子 ○じょうぶな子・・・運動に親しみ、心身を鍛え、健康で安全な生活を目指す子
○教師像	○児童を愛し、児童から愛され、人間味あふれる教師 ○自ら学び続け、協働しながら創造性豊かな教育活動へとつなげられる教師集団 ○保護者や地域から信頼され、自ら社会の一員として活躍する教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### [学校の現状]

- 恵まれた自然環境を生かした学習を取り入れている。
- 児童は概ね落ち着いて授業に取り組み、学習活動に取り組んでいる。
- 主幹教諭2名、主任教諭3名、本校初任校7名、産育休代替教諭5名。
- 保護者は学校に協力的である。開かれた学校づくり協議会をはじめ地域の方々により、自然環境の維持や交通安全の見守りが実施されている。

### [前年度の成果と課題]

#### 重点的な取組事項-1 学力向上アクションプラン

- 成果 6年では、区の目標値に対する通過率が国語76.1%、算数74.5%であった。
- 課題 学力調査の結果は、区平均を下回るものであった。習熟度に応じた補習の設定や指導力の向上など、学校全体で取り組んでいく。

#### 重点的な取組事項-2 健康な心身づくり

- 成果 コロナ禍で密を避けるために中休みを2分割して行うなど、安全に運動できる環境は確保した。
- 課題 体力テスト等をもとに体力向上策を見直し、体育の授業の充実を図るなど、綿密な計画及び実施が課題である。

#### 重点的な取組事項-3 持続可能な開発目標（SDGs）を意識した教育活動

- 成果 SDGsを意識させる取り組みは、各学年において学習内容に関連付けながら学習を進めることで一定の成果を得た。
- 課題 学んだことを意識して、児童自身が活動に取り組めるようにしていく。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○		
2	健康な体づくり	○	○	○		
3	SDGs（持続可能な開発目標）を意識した教育活動の推進	○	○	○		

#### 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査問題による基礎的・基本的な学力の定着		国語7割以上、算数7割以上		4月 国語2～6年平均で6割超 算数2～6年平均で6割弱 2月 国語1～6年平均で7割超 算数1～6年平均で7割超		区調査において達成基準7割以上に対し、学校全体で国語-4.5ポイント、算数-11.4ポイント下回った。未定着問題の類似問題を繰り返し学習する補習を設定するとともに、学校全体で指導体制を整え取り組む。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	ICTの活用	全学年 全教科	毎日	より分かる授業を行うために、授業者がタブレット端末や電子黒板等のICTを活用する。	児童・教員向けのアンケート調査	毎日1回以上、ICTの活用が9割以上	教員の9割以上がICTを活用した授業を実施した。 児童の8割以上がICTを活用すると学習内容がよくわかると回答した。	電子教科書やタブレット端末等を活用した授業を展開することができた。 授業におけるICTの効果的な活用について情報収集・実践を重ねていく必要がある。	◎

継続	パワーアップタイム	全学年 国語 算数	毎日 特設時間 10分間	学習の定着度を図るため、担任・副担任がAIドリル等の問題に取り組む。	蓄積する学習ファイル、AIドリル等のデータ	漢字8割以上、四則計算8割以上の習得	漢字も四則計算も概ね8割の児童が8割以上を達成した。	1学年のAIドリル活用以降、毎月の全校平均が300問以上取り組めた。 パワーアップタイムとハッピータイムの連携を強化し、個別の支援をより一層充実させる必要がある。	○
継続	ハッピータイム	全学年 国語 算数	毎週 木曜日 昼休み 10分間	既習学習の習熟を図るため、担任が数名に個別のつまずきを指導する。	既習学習のプリント問題等のファイル	第4週木曜日、既習学習問題8割以上	既習学習問題の正答率80%以上の児童が8割以上を、6学年以外で達成した。	AIドリルや学習プリントを活用し、下学年等の学習に取り組んできた。 下学年の時に、対象児童の選定や学習問題の内容を精査し、より効果を高めていくことが必要である。	○
継続	サマースクール	全学年 国語 算数	夏休み 10日間	特に下学年の学習を習得するため、全教員による少人数指導をする。	取り組んだ学習のまとめテスト	参加最終日、復習問題8割以上	まとめテストの正答率が2、3、6学年では7割以上、4、5学年では8割以上を達成できた。	学習のまとめテストにおいてヒントを与えれば全学年ほぼ全児童が目標を達成できた。 類似問題を通して自力で解答できるよう指導を継続していく必要がある。	○

重点的な取組事項－2		健康な体づくり			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力状況調査項目の向上		校内で再度、体力状況調査を行い、調査項目が向上した児童が9割以上	1月にラダートレーニング等の運動を取り組み、2月に2回目を実施した結果、概ね8割の児童の記録が更新することができた。	都の体力・運動能力調査において測定値が低い傾向のある反復横跳び、立ち幅跳びの項目の向上に注力した。体力向上に係る運動について体育の授業の始めの運動に取り入れたり、苦手な運動項目について中島根タイム等の時間に学校全体で取り組んだりする必要がある。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上	体力状況調査結果の項目が上昇した児童が9割以上	中島根タイムを活用し、50Mダッシュ、短縄、長縄等の運動を計画的に行う。	特に調査結果が平均値より低かった3項目について再調査した。 50M走が上昇した児童は、8割以上であった。 上体起こしが上昇した児童は、概ね7割以上であった。 ソフトボール投げが上昇した児童は、概ね8割以上であった。	校内1回目体力調査結果をもとに体育の中で苦手な運動項目に関する練習を取り入れ、校内2回目の調査を実施した。 個人内結果を比較し、年度当初からの教育活動計画に生かしていく必要がある。	○

食育の推進	年間を通して、給食残菜率が1%台	日本の伝統的な料理や世界各地の料理、誕生月給食、リクエスト給食等の特徴的なメニューを定期的に献立に取り入れる。	5～7月の暑い時期は6%台であったが、月平均の残菜率は4%台であった。	月ごとに、日本の伝統的な料理の日・世界の料理の日・誕生月給食の日・リクエスト給食の日・野菜の日等、工夫した献立にした。根菜類の煮物や汁物、混ぜご飯の残菜が目立つので、食材の大きさや量等、もう一工夫が必要である。	△
生活習慣の確立	早起き・朝ごはんの摂取の達成率9割以上	早起きや朝ごはん等の項目を挙げた健康チェックカードを活用し、定期的に取り組む。	早起きは、概ね8割であったが、朝ごはんは、9割以上の全校児童が達成できた。	健康チェックカードを変更し、毎月末にタブレット端末を活用してチェックした。早起きをすることで登校してからの学校生活がスムーズにスタートできる等、早起きすることの利点を指導する必要がある。	○

重点的な取組事項－3		SDG s（持続可能な開発目標）を意識した教育活動の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
SDG s に関連付けた教育活動の実践		各学年における年間学習計画の作成及び学習発表会での実施	各学年における年間計画を作成し、12月に学習発表会を実施した。	各学年で校外学習の学びを生かした学習発表会を実施できた。学習発表会の内容に係るSDG sを意識した日常生活に取り組んでいく必要がある。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
各学年における年間学習計画の作成及び見直し	SDG s の17の目標について関連付けた年間学習計画の作成及び見直し	各教科等の学習内容に関連付けて計画的に学習に取り入れるとともに、毎月その内容を修正する。	各学年に応じ、他教科等に関連付けた年間学習計画を作成した。	昨年度の年間計画を見直すとともに、今年度の学習計画を修正・作成することができた。次年度の1・3・5年については、新しい教科書の内容を考慮した年間学習計画を作成していく必要がある。	○
学習発表会への関連付け	SDG s の17の目標について1つ以上を取り入れた学習発表会の内容	各教科等の学習内容に関連付けて計画的に学習に取り入れる。	各学年、他教科と関連付けて学習発表の準備を進めるとともに、校外学習で学んだ内容を取り入れた発表を実施した。	生活科や総合的な学習の時間を中心に、他教科等と関連付けながら、体験学習を通して学習を深めてきた内容を、歌や劇、プレゼンテーションなどを取り入れた発表ができた。学年で学んだことを他学年等の日常的な活動に広げていく必要がある。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

学力向上アクションプランについて

#### 【課題】

- ・ 足立区学力調査における平均正答率（正答数÷出題数×100%）は、全校平均と比較して国語 68.9%（全国比-7.3 ポイント）、算数 61.3%（全国比-11.3 ポイント）であった。
- ・ 国語と算数の両教科とも全校平均が全国平均正答率よりも-5 ポイント以内で下回っていたが、特に高学年である 5 学年算数が-8.1 ポイント、6 学年算数が-19.6 ポイントと大きく下回っている状況であった。学校全体を通して定着状況に課題があるため、習熟度別指導やそだち指導、個に応じた補習指導に注力し、学力向上を図ることが必要である。また、基礎的・基本的な学習内容の定着だけではなく、課題の解決に最後まで取り組む姿勢、自発的な学習習慣につながる学びへの意欲や喜びを感じさせる授業づくりが不可欠である。

#### 【解決の方向性】

- ・ 年間を通して、若手教員を中心にして全教員に対して教科指導専門員による授業観察と指導を仰ぎ、国語と算数の授業改善を進めている。また、校内研究では各教員が児童の実態に応じた課題を設定し、課題解決を図る改善策を実践することで、わかる授業につながる指導技術の向上を図っていく。
- ・ 普段の授業に加え、放課後に区学力調査結果や単元ワークテスト結果を基に児童を選定し、未定着の領域等の補習教室を行っている。指導時間を 30 分間とし、指導体制は副担任を加えた全教員で取り組んでいく。また、長期休業期間を含めて、意図的・計画的に対象児童を抽出し、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、「わかった」という喜びを実感させていくことで自信をもたせ学力の向上を図っていく。
- ・ 一人 1 台のタブレット端末を有効に活用し、AI ドリル等の個別に最適化した課題に取り組ませることで効果的な学びの支援を継続していく。また、毎日タブレット端末を家庭へ持ち帰らせ、児童に対する日々の連絡等をストリーム機能を活用するとともに、自主的・自発的に家庭学習に取り組めるようにしていく。さらに、タブレット端末を正しく利用ができるよう、情報モラルの学習や正しい情報の利活用など高度情報化社会に生きる力を伸ばしていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

#### ○学校の教育活動について

コロナ禍が明け、少しずつコロナ禍前の教育活動を取り戻すとともに、感染症拡大防止策を講じながら安心安全を第一とした学校運営を進める一年となった。また、コロナ禍前の行事等をそのまま復活させるのではなく、精査や見直しを進め、児童にとってよりよい形で計画立案を進めている。保護者・地域の皆様には、教育活動に対して大きなご理解とご協力をいただき、児童に様々な学習経験を実現できたことに感謝している。

#### ○体力向上の取組について

コロナ禍で低下した体力の維持・向上に向けて、児童に過度に負荷を掛けないように配慮しつつ、猛暑の時期においても体育館の活用を踏まえ適切な運動量の確保を行った。また、日常の体育学習での取り組みを運動発表会として保護者に向けて披露する場を設けることができた。水泳指導も本年度も 7 月中に実施することができた。さらに、授業外の中島根タイムの時間帯を活用し、運動・能力調査項目の練習や短縄・長縄を使った運動、持久走練習等、体力向上に努めている。

#### ○環境教育の取組について

本校の特色ある教育活動の「グリーンカーテン」「ビオトープ」「校庭の芝生」「水田」「学年の果樹」等の恵まれた環境を教材とした学習活動に取り組んでいる。地域の皆様を交えた「緑を育む会」では、「グリーンカーテンの維持管理」「土づくり」「ビオトープ管理」「果樹管理」「水田管理」などにご協力

いただいている。

○挨拶の励行について

気持ちのよい挨拶は、人間関係をつくる上で潤滑油となる大切な生活習慣の一つである。担任・副担任・用務主事をはじめとする教職員からの個別の言葉掛けは、児童に寄り添った対応を実現するためにも効果的である。明るく元気な挨拶を通して、前向きな気持ちを高めることができるよう、「いつでも」「どこでも」「誰にでも」よい挨拶ができる習慣が身に付くよう家庭との連携を継続していく。

○「グリーンパレットなかしまね」について

放課後子ども教室「グリーンパレットなかしまね」では、放課後の時間を過ごす、児童にとっての楽しみと交流の場を提供いただいている。豊かな子どもの遊びを支えていただき、たくさんの児童が参加しており、今後とも関係諸機関と連携した活動を進めていく。

**(3) その他（学校教育活動全般について）**

○ゲストティーチャー等の活用

学年に応じた学習内容の理解促進や体験を有意義なものとするために出前授業を計画・実践することで、児童にとって得がたい経験を得ることができた。また、教科等や学習発表会に関連付けた校外学習での体験活動もあわせ、キャリア教育としても有意義なものとなるよう、今後も位置付けていく。

○生命（いのち）の安全教育の実施

「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を踏まえ、子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう推進する「生命の安全教育」を実践していく。どの子も距離感をもち、相互に尊重し合って安心・安全に過ごせるだけでなく、SNSの適正な利用やSOSを出すことのできる判断力や実行力を身に付けるなど、広く生活指導にも結び付けた学びにつなげていく。